第16回建築コンクール

公益社団法人愛知建築士会名古屋北支部主催

「コード」な建築

建築はみんなでつくる
音楽はみんなではじめる
コードをならしてはじまる音楽
呼応してつくる建築があると思う
そんな、揺さぶる建築作品を
募集します

公益社団法人
愛知建築士会 名古屋北支部

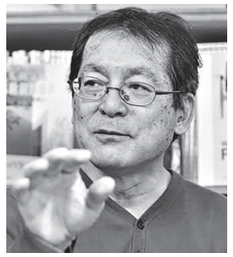
CONTENT

SYMPOSIUM

伊礼 智［建築家］……04
栗生はるか［建築家］……06
ナガオカケンメイ
［デザイン活動家・D&DEPARTMENT ディレクター］……08

CONCOURS

応募作品紹介……10
最優秀賞……12
優秀賞……13
審査員賞……14
佳作……15
応募作品リスト、審査……16
総評……18
愛知建築士会会長挨拶……19
後援／協賛企業……19



伊礼 智　建築家

沖縄生まれ。
1982 年琉球大学理工学部建設工学科計画研究室卒業後、1985 年東京藝術大学美術学部建築科大学院修了。丸谷博男＋エーアンドーエーを経て、1996 年伊礼智設計室開設。2005 年より2016 年で日本大学生産工学部建築工学科「居住デザインコース」非常勤講師。2016 年より東京芸術大学美術学部建築科非常勤講師。2024 年より日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師。
著書に、伊礼智の「小さな家」70のレシピ　伊礼智の住宅設計iii 心地よさのものさし　伊礼智の住宅デザイン学校がある。

1. 設計の標準化に取り組むきっかけ

私は主に住宅の設計をしており、今回お話しするのは「設計の標準化」についてです。きっかけは 25 年前、とある分譲住宅のプロジェクトでした。設備設計が得意な恩師の依頼で、分譲住宅をいかに高品質かつコストを抑えて提供できるか、という課題に挑むことになりました。





改善の成果です。一度きりの設計では得られない学びが、標準化にはあると実感しました。コード（設計の規範）とは単に縛るためのものではなく、進化の足場にもなるのです。

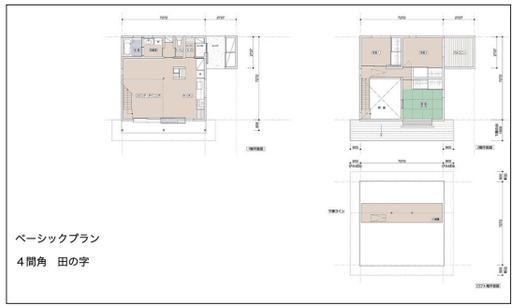
2.「標準化」の仕組みと実践

私が考えたのは、玄関、階段、洗面所、浴室などの住宅の主要部分を標準化することで、設計・施工を効率化し、品質のばらつきを抑える仕組みでした。打ち合わせ中に金額や仕様を即座に確認できるようにして、住まい手の希望に応じた調整も可能にしました。施工現場では、納まりも標準化していたので、職人たちの作業が早くなり、精度も上がっていきました。実際、私が設計した最初のモデルハウスよりも、後に建てられた家の方がクオリティが高くなるという現象が起きました。これは「繰り返し」による



3. 緩やかなコードと自由の共存

私が考える標準化は、すべてをガチガチに縛るものではありません。たとえば、屋根勾配やソーラー設置、自然素材の塗り壁の色を選ぶといった最低限のルール（=緩やかなコード）だけを設けています。それ以外は、設計者や住まい手の自由に任せているのです。 この“ゆるいコード”が、逆に多様性を生み出します。職人が違えば、同じ標準仕様でもまったく異なる空気感の家ができあがります。標準化とは均一化ではなく、共通の土台の上に多彩な個性を重ねることなのだと思います。コードを「楽譜」とするなら、演奏する人=設計者や職人の手によって、同じ旋律でも異なる響きが生まれる。そのゆらぎこそが住宅を豊かにします。



4.i-works とご当地バージョンの展開

その後、「i-works 1.0」という設計パッケージを開発し、全国の工務店やメーカーと連携して展開しています。30 坪ほどの基本プランをベースに、各地の素材や気候に合わせた“ご当地バージョン”を作っています。 秋田では秋田杉を活用し、北海道では高断熱仕様やパッシブ換気を採用しました。外観や家具は同じでも、地域や素材が変われば家の空気感がまるで違います。北海道の住宅では、キャットウォークを採用して日射取得と意匠のバランスをとる工夫もしました。こうした展開は、



緩やかなコードが地域の文脈に接続されていくプロセスであり、標準化の中で多様な“変奏”が生まれていく過程でもあります。



5. 繰り返しの中で生まれる質と進化

標準化は、繰り返すことで初めて改善と進化が可能になります。職人の手が慣れ、施工の質が上がり、コストも抑えられる。さらに、地域に根ざした設計に変化し、コードの中に新たな表現が生まれてくるのです。 私は今も、家具の設計や新しい仕様の開発に取り組んでいます。建築家が一度きりで終わらず、責任を持って改良を重ねていく。それが、ものづくりとして健全な姿だと思っています。繰り返しを重ねることで精度が上がり、多様性が生まれる。その仕組みそのものが、私にとっての「コードな建築」の実践だと考えています。





栗生はるか 建築家

一般社団法人せんとうとまち代表理事、文京建築会ユース代表
早稲田大学で建築を学び、ヴェネツィアへ留学。㈱NHK アートを経て、大学で建築教育に携わる。法政大学 江戸東京センター客員研究員として、都市空間とコミュニティについて研究。現在、法政大学、慶應大学非常勤講師。地域の魅力を様々な角度から発信すると共に、銭湯と周辺地域の再生活動を展開している。東京文化資源会議や東京ビエンナーレ2020 に、本郷エリアのディレクターとして参画。空家を活用した地域サロン等も運営中。

「和音」として捉える

イタリア・ヴェネツィアの広場では、昼はテントやカフェの椅子が並び、夜にはすべて片付けられ、また何もない空間に戻る。このように日々変化する仮設物がまるで「コード」、「和音」のように感じました。



「暗号」化する地域

東京･本郷にはかつて100軒を超える旅館が密集していました。しかし、現在残るのはわずか３軒。「かつての姿」は街から消え、住民もその歴史を知らない状況になっています。そのことを知り３軒しか残っていないわずかな旅館を手がかりにかつての街の様子を炙り出すということをしています。



かつての姿を「復号」する

暗号になってしまったものを解読する作業のことを復号といい、復号する作業ということで、2016 年に閉館した朝陽館への取材を通して、模型制作や物品収集、そしてご店主へのインタビューを実施しました。ご店主のインタビューから朝陽館は手塚治虫が缶詰になり『ジャングル大帝』を執筆した場所としても知られ、その秘話や記憶を丁寧に聞き取り、映像にまとめました。これらの収集された記憶は、文京区役所のギャラリーで本郷の地域にあった旅館の記憶を知ってもらう展示をし、人々に本郷の旅館文化を伝える貴重な機会となりました。





単に旅館に留まらず、銭湯、喫茶店、個人商店など、チェーン店化によって失われつつある街の歴史的・文化的な記憶を持つ場所全般に及んでいます。一見しただけではその個性が失われてしまった街を「虫食い状態」と表現し、調査や取材を通して、それぞれの場所が持っていた役割、意味、歴史、文化を解読し、再び可視化することを目指しています。特に力を入れているのが、文京区内の昭和創業の喫茶店の調査です。大学が多く学生街として栄えた本郷には、かつて多くの喫茶店が存在しました。1970 年代には多くの喫茶店がありましたが、現在残っているのはわずか 25 軒から 30 軒程度です。これらの昔ながらの喫茶店は、単なる飲食店ではなく、地域の人々の「拠り所」や「サロン」として機能し、まさに「街のオアシス」と呼べる存在です。プロジェクトでは、１軒１軒取材を行い、その歴史や個性を紹介する展示を文京区役所で２回開催し、地域住民に喫茶店の魅力を発信しています。

さらに「活号」する



これらの活動は、かつて存在していた町の姿を復号し、それを「今の言葉」で翻訳し直すことで、現代の人びとがその価値を再認識できるようにする。そこから新たな活動へと繋げることです。過去の記憶を元に街の魅力を再構築し、具体的な支援へと繋げる。このプロジェクトは、記憶が失われつつある現代において、地域のアイデンティティを取り戻し、未来へと繋げていくための重要な取り組みとなると信じています。







ナガオカケンメイ　デザイン活動家・D&DEPARTMENT ディレクター

「ロングライフデザイン」をテーマとするストアスタイルの活動体D&DEPARTMENT PROJECT を創設。47 都道府県に1か所ずつ拠点をつくりながら、デザイン目線の旅行文化誌『d design tarvel』や日本初のデザイン物産ミュージアム「d47 MUSEUM」などを展開。物販・飲食・出版・観光などを通して、47の「個性」と「息の長い、その土地らしいデザイン」を見直し、全国に向けて紹介する活動を行う。2013毎日デザイン賞受賞。「情熱大陸」「カンブリア宮殿」などに出演。著書に「ナガオカケンメイの眼」（平凡社）など。2021 年より故郷・愛知県阿久比町で「d news」をスタートし、現在、阿久比町と沖縄うるま市で活動中。
www.nagaokakenmei.com

僕の活動から見えてきた現代の「価値」のあり方について、3つの「コード」を共有したいと思います。美しい和音より、社会の問題意識に専門家じゃない立場でしつこく「ざわざわ」させたい、つまり「不協和音」を奏でたい。



1. 不協和音：プラスチックと価値の再定義

最初の「不協和音」は、プラスチックの価値観。みんな悪者扱いするけど、僕らはすごくお世話になっている。捨てる場所の問題なのに安易な「脱プラ」に疑問を感じていて。だから、プラスチックの価値を考えるきっかけを作ろうと、陶芸家のギャラリーで1万円のプラスチック製マグカップを発表したのです。「プラスチックマグが1万円」って問いかけたら、予想以上に売れて手応えがありましたね。この発想は「ロングライフプラスチックプロジェクト」に発展して、原材料メーカーさんと組んで、流行に左右されないデザインのマグカップを定期的に出しています。D&DEPARTMENT で 4,750 円、そしてキャンドゥさんとのコラボでは同じ型で 550 円でも販売。この価格差があるのに、文句を言われたことは一度もないのです。お客さんは、価格じゃなくて、背後にある「想い」や「ストーリー」といった「形の無いもの」に価値を見出して購入している。モノの値段じゃなくて、人の想いを手に入れる時代になったってことですね。これが最初の「不協和音」です。





2. 建築における「心のケア」：マギーズ東京



次に建築の話です。僕、建築が好きで、最近「マギーズ東京」に行ってすごく感動しました。末期がん患者さんが治療じゃなくて「心のケア」のために通う施設なのです。病院の廊下で待たされた悲しい経験から、いつでも予約なしで相談できる空間として設立されたそうです。マギーズセンターには世界共通の建築ルールがあって、例えば「一人で泣ける広めのトイレ」があるとか、居心地の良さが徹底されている。病院が提供できない、精神的な安らぎの場を建築が担っていることに感銘を受けました。

今、僕がプロデュースしている三重の「VISON」の広島版に、このマギーズセンターを誘致する計画を進めています。商業施設にこれを組み込むことで、ただ消費する場じゃなくて、利用者も安心して過ごせるような、新しい感覚の施設を作りたいと考えているんですよ。これも異なる要素を融合させる「不協和音」の一種と言えるでしょう。

3. もののまわり：D&DEPARTMENT が提示する価値観

最後は、僕が運営している「D&DEPARTMENT」の話。僕たちは「ロングライフデザイン」をテーマに、製造から約 40 年経った商品を売る、珍しいお店を 24 年間続けています。国内 8 店舗、中国、韓国にも展開していて、各地域に長く根付くモノを紹介しています。昔は「デザインが良いから」「性能が良いから」って買われたけど、今は「その商品を買ったらどんな幸せが待っているか」っていう、商品そのものじゃなくて、その背景にある「物の周り」に価値を見出す時代になったと認識しています。D&DEPARTMENT では、「地域」「暮らし」「産業」「環境」「仲間」の 5 つの項目を商品の選定基準にしています。商品を説明する時やイベントの時には、必ずこの 5 つを紹介し、スタッフ全員で共有しています。一つの



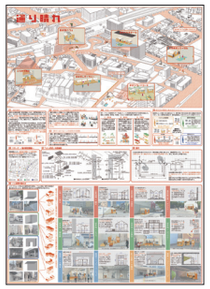
商品が単一の「音」を奏でるのではなくて、背景にある様々な要素が織りなす「和音（コード）」として、その価値を共有していくスタイルなのです。僕の活動は、こうした「不協和音」を意図的に作り出すことで、社会の固定観念に揺さぶりをかけ、みんなが「本当の価値とは何か」を深く考えるきっかけを提供することを目指しています。

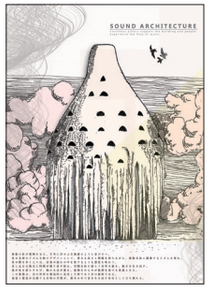


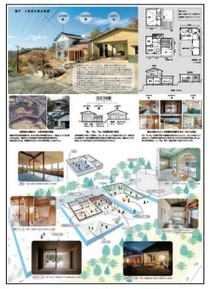
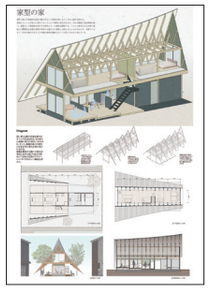
CONCOURS
応募作品紹介

本年度
応募作品
全41作品



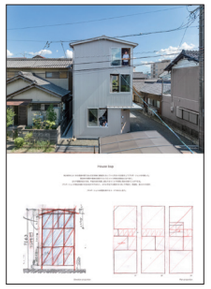




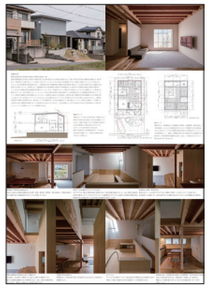

















建築コンクールとは

建築の定義を広げるために開催します。
例えば、小さな環境装置のような社会の課題を解決できるモノで人々を幸せにするコトも建築と言ってもいいのではないか。
建築の意味は、社会や文化の価値環境とともに広がっていきます。
建築コンクールは、毎年提示されるテーマについて、分野を超え、広く作品やアイディアを募集し、同時に審査員によるシンポジウムを開催、テーマの持つ意味や可能性を深めます。
このコンクールは、お題をもって建築の領域を広く探ります。



CONCOURS

最優秀賞　地包みの平屋建て

関谷 涼太


地包みの平屋建て
一般に建築行為の手順は設計者による発想から始まりそれが図面化され、その後施工者の選定、工事へと続く。
もしも、その手順が逆ならば、発想の起因を「施工者」から見出すことができたなら、施工者の技術や思想、哲学は設計にどんな幅を与えてくれるだろうか。
この建築は「つくり手の技術と熱を美しく実現させる場」。
そう定義して計画することで、建築行為の本質的な感動に出会える目じた。
設計の過程でせいくつもの選択肢のある中で判断の基準としたのは、
----- この職人の技量な仕事は何か？ -----
----- この設計に職人はど腕をだろうか？ -----
----- この材、この納まりに似合うのはどんな空間だろうか？ -----
その判断を得るなかに会話を膨り返し、そのやから設計や職人の意思を得た。
職人との掛け合いにより生まれた緻密な仕事は、空間美としてこの建築に還元された。
凸南側からの道望。高台からの眺望と採光を見込める南側を開ざし、斜面で造る庭を主役に北側を開けさせることで、終日落ち着いた明るみと暗がり、住宅街であることを忘れさせるプライバシーを得ている。
凸北側には模本は列植から選んだ常緑樹を据えた。建物無での道路となるため基礎工事の前に行った、まだ何もない状態でその中を想像する必要があった。周望した南側には観もう中の一枚のみ。打ち合わせ台で現場と森の中で打ち、実物と会話をしてカタのイメージを伝えあった。百や樹木は日当たりやとの状態等、植える位置の現況には高い山や周から移植した。石垣については石積や参みなを取り込めて、現存在なかみ移植を行うそ中で生まれた感性のままに組んだ。屋の格式に対する意識を排除し、各々がつくりたい景色を主張し合った。
凸建物は平屋とし、周辺地域の景観に配慮した勾配屋根とした。屋根は南側に大きく開き、北側に小さく開くことで、南からの光を室内に取り込み、北からの光を抑えるようにした。
凸内部はリビング階を設け、内部は白土平面施切り。
凸家具は大工による製作とし、建物の緻密な接合による窓辺と感性をそのまま断部まで溶とし込んだ。
凸照明器具やカーテンレール等は黒皮や無垢の鉄で製作、細部から経年変化を醸す。
凸接合部の詳細。目と手の触れる位置に仕事の跡を残した。
凸北側には大きな開口を設けず、高窓とすることで、終日落ち着いた明るみと暗がり、住宅街であることを忘れさせるプライバシーを得ている。
凸建物は手積みによる木組み、込栓、金輪継ぎをはじめとした様々な仕口・継ぎ、留を ちから組合せる事で剛性を高め、木ダボ下地の工程段階からその組み方留め方の意見を交工・左官とも に関与合わせた、土壁や底塗、分量等をはじめとした設計者の意思を持つべき調整段階まで作用し、その場の「手土地」による個体は職人に委ねそれを受け入れる姿勢を取った。
凸家具は大工による製作とし、建物の緻密な接合による窓辺と感性をそのまま断部まで溶とし込んだ。
凸接合部の詳細。目と手の触れる位置に仕事の跡を残した。
凸照明器具やカーテンレール等は黒皮や無垢の鉄で製作、細部から経年変化を醸す。
凸南側からの道望。高台からの眺望と採光を見込める南側を開ざし、斜面で造る庭を主役に北側を開けさせることで、終日落ち着いた明るみと暗がり、住宅街であることを忘れさせるプライバシーを得ている。
凸建物は手積みによる木組み、込栓、金輪継ぎをはじめとした様々な仕口・継ぎ、留を ちから組合せる事で剛性を高め、木ダボ下地の工程段階からその組み方留め方の意見を交工・左官とも に関与合わせた、土壁や底塗、分量等をはじめとした設計者の意思を持つべき調整段階まで作用し、その場の「手土地」による個体は職人に委ねそれを受け入れる姿勢を取った。
凸北側には模本は列植から選んだ常緑樹を据えた。建物無での道路となるため基礎工事の前に行った、まだ何もない状態でその中を想像する必要があった。周望した南側には観もう中の一枚のみ。打ち合わせ台で現場と森の中で打ち、実物と会話をしてカタのイメージを伝えあった。百や樹木は日当たりやとの状態等、植える位置の現況には高い山や周から移植した。石垣については石積や参みなを取り込めて、現存在なかみ移植を行うそ中で生まれた感性のままに組んだ。屋の格式に対する意識を排除し、各々がつくりたい景色を主張し合った。
凸建物は平屋とし、周辺地域の景観に配慮した勾配屋根とした。屋根は南側に大きく開き、北側に小さく開くことで、南からの光を室内に取り込み、北からの光を抑えるようにした。
凸内部はリビング階を設け、内部は白土平面施切り

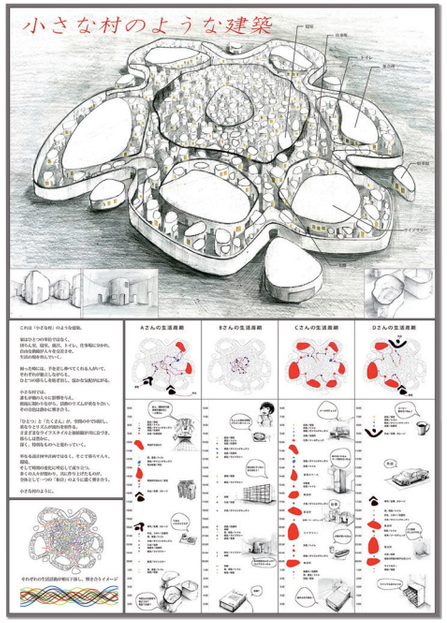


House bsp

伊礼賞

House bsp

永治 祐太



ナガオカ賞

小さな村のような建築

矢間 将司

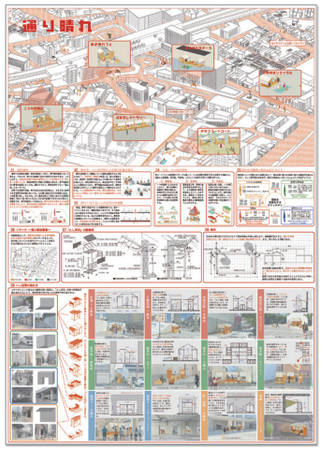


栗生賞

アドホッキズムの駄菓子屋建築 -15 年

棚田 悠介、名取 美卯、須田 修二

佳作



通り晴れ

川畑奨太、内藤三刀夢、山下将輝、長谷川昴大



シロクマハウス

カナパカリズ／下田 直彦+正木 知子



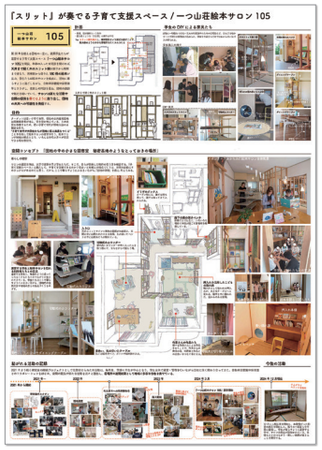
壁を仕立てる

宮澤 周平



雪国集落風景の彩りの呼応

飯田 嵩洋



一つ山荘絵本サロン 105

名城大学谷田研究室 代表者 和田明花





応募作品リスト

●…1次投票通過作品　■…受賞作

01 HOUSEUM／鈴木俊彦●
02 席単／白川直行
03 ニシイケバレイ／須藤剛●
04 シロクマハウスカナバカリズ／下田直彦+正木知子●
05 折れ屋根の家／石崎哲也+石崎瑠美子
06 壁を仕立てる／宮澤周平●
07 Pergola／葛島隆之
08 森の響き庵／田中美羽
09 氷見の住宅／江畑隼也
10 雪国集落風景の彩りの呼応／飯田嵩洋●
11 通り晴れ／川畑奨太、内藤三刀夢、山下将輝、長谷川昂大●
12 みんなでつくる第二学童／伊藤睦子
13 故人が奏でる「根色」／梯 涼真　奥 昇大
14 シュレッダーされた紙の茶室／久冨敏明
15 蒲暦／大角真子●■
16 houseSY／寄木壁の家門間 香奈子＋古川 晋也
17 between architecture and works／中嶋海成
18 水上サウナ／安井鯨太
19 木造コード／矢間将司
20 小さな村のような建築／矢間将司●■
21 SOUND ARCHITECTURE／矢間将司
22 一つ山荘絵本サロン105／名城大学谷田研究室 代表者 和田明花●
23 循環の構造／DONGUK AGOS LEE
24 梅ノ木の家／岸 秀和
25 梅田町自治会館／奥田晃輔 堀井達也 吉田裕樹 小林未涼
26 アドホッキズムの駄菓子屋建築 -15 年／棚田悠介 名取美卯 須田修二●■
27 House bsp／永冶祐太●■
28 White Cave／水谷夏樹
29 コード駆使した別奏／北河 崇
30 瀬戸　2棟空き家の改修／金子佳弘●
31 ケンチキューブ／林飛良●■
32 里山のバビリオン「アシアト」／石上芳弘
33 定納山の家／野村亮介
34 音がなるところ　Where the sound comes from／豊福悠
35 家型の家／浪川翔太
36 周縁と重なる円／猪飼洋平
37 地包みの平屋建て／関谷 涼太●■
38 名張きぼうのこども園／森本雅史・森本景二
39 背板のバビリオン／繁藤 大地
40 都市の根幹／新延摩耶
41 斜と構／加藤大作●

審査

ナガオカ 今回のテーマにすごく合っている。

浅井 地包みの平屋建ては実作で、ケンチキューブっていうのも実際には作られていると言う所。このコンペは実現可能なアイディアであれば最優秀賞でも OK なので、それらで評価して行きたいと思います。どうでしょうか。

伊礼 僕はですね、こども向けに実際に家を作ろうということでやったことがありまして、段ボールを使って、一緒になって学生を一人の子供たちに付けてやったりしていて、子供たちの建築教育として実際に手を動かしてやるってすごくいいなと思ったのでね。すごく面白いなあと思いました。

栗生 さっきも話ししたのですけど、この形状をどうやって決めたかが気になりますね。

浅井 会場にいるかな?この作者の方、今日来ていますかね?

栗生 形状の説明あるかなって思いましたが無かったのですよね。

伊礼 寸法が決まっていますよね。2帖くらいですかね、いろいろな大きさがありますよね。一つのキューブがどれくらいの大きさなのでしょうね。

栗生 上の透明のフォックスに入れるのが一番難しそうっていう感じがしますね。

浅井 まあでも、こういうのはワクワクしますね。

伊礼 僕の一坪の標準化を立体化したようなやつで。レゴよりももう少し大きくみたい。

浅井 伊礼さん作ってもらったらどうですか。笑

伊礼 いやいやいや。でもどうやって決めたのんでしょうね。あの冷蔵庫使いにくそうですね。笑

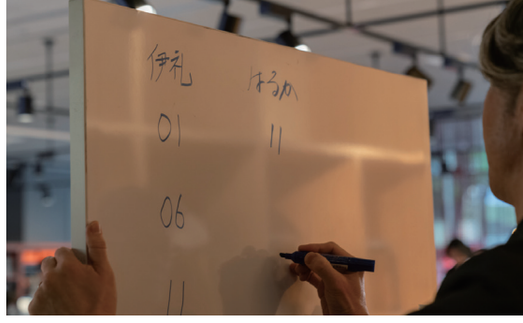
栗生 階段が急ですよね。

浅井 地包みの平屋建ては職人さん目線からこう作り上げたっていう作品ですけど。

ナガオカ 先ほどチラッと言った阿久比の壁を残すプロジェクトで、左官屋さんが名乗り出てくださって、そういうふうな見方を今の話に置き換えた時に、いろんな手技を持ってらっしゃる方の技術の継承とか技術を知ってもらうっていう意味で作り上げてこういう形に最終的になったみたいなことも言えるとしたならば、コード・和音になりますけどね。

伊礼 あの仕口も素晴らしいと思います。





総評



ナガオカケンメイさん

長時間お疲れ様でした。コンペってやっぱりテーマがあって、そのテーマにすごく一生懸命に向き合ってアイデアを考えてくださった方々の熱量を感じながら、本当に楽しく審査できました。地包みの平屋建ては、実際はちょっと言っちゃ悪いですけど、地味なちょっとスポットライト当たりそうにないような感じですけども、地力があるというか、本当に腹の底から湧いてくるような力強いアイディアが一等賞になって本当に良かったと思います。ありがとうございました。



栗生はるかさん

先ほど紹介した銭湯の隣の二軒長屋を改修した時も同じ状況で、左官屋さんが「やったことがあんまりないけど、ぜひ技術継承の為にやりたい」とおっしゃられて、それをまた地域の方に一緒に公開で学んでもらうことをやっていて、そういうことを積極的に引き継いでいかなきゃいけない気持ちがすごくありました。この作品からも読み取れたので、良い最優秀賞になったかなと思います。賞の並びを見ると、本当に建築的なものが最優秀賞で、優秀賞は建築の領域を広げるようなものが選ばれて、バランスが良かったかな。改めてこのコードな建築は、みんなで作る・使うとかの意味だと思いますが、建築や建築以外のものでも何かを作る上で、必ずありうる話。全てが和音でできていることを改めて感じ、選ばれた作品はさらにプラスアルファのコードが読み取れたものなのかなと感じます。ありがとうございました。

＜第 2 回集計＞

浅井 ケンチキューブか地包みの平屋建てのどちらかが大賞と思っているんですけども。

栗生 難しいなあ。

浅井 この二つを選ぶのが難しい?これはもう審査委員長たのみます。決めてください。難しいですね。

伊礼 今本当に職人が減っているのでね。やっぱりこういう仕事は大事にしたいというのはすごくあるので、実際に先ほど見るとかなり高度なことをやられているので、個人的には地包みの平屋建てでいかがでしょうかと思いますが、どうでしょう。大丈夫ですか?

栗生 賛成です。

ナガオカ はい。

浅井 すっと決まりましたね。最優秀賞は地包みの平屋建てということで、おめでとうございます。

伊礼 優秀賞が難しくなりましたね。

浅井 優秀賞は今のケンチキューブと、あと2ポイント入っているのが、アドホッキズムの駄菓子屋と蒲暦のこの三つから。3 ポイント入っているのは優秀賞でよろしいですかね。ケンチキューブは優秀賞ということで決定します。おめでとうございます。

浅井 あとひとつ優秀賞を決めたいので蒲暦とアドホッキズム。

伊礼 この両方入れているのははるかさんですから。はるかさん決めたら?

栗生 あのどっちも審査員賞候補なので。

浅井 なるほど。

栗生 それは入れてないお 2 人に選んでいただいて。

伊礼 僕は蒲暦ですね。

浅井 ケンメイさんはどっちが良いです。駄菓子屋か蒲暦か。

ナガオカ どっちもいいですね。どっちもいいです。あ、でも蒲暦でいいと思います。

浅井 蒲暦でいいの?乗り換えるってことね。

ナガオカ 乗り換える。

栗生 蒲暦で良いと思います。

浅井 はい。じゃあ優勝賞は蒲暦で。



伊礼智さん

コードな建築ってすごい僕にとって難しくて、意外と皆さんすごく真面目で、やっぱりこのコンクールも色々変わっているのだなと思いました。音楽のコードだけじゃなくて、規範とかがちょっと変わっただけで違うものになるみたいな、そんな風に受け取ったので、最初はそういうつもりで来たのですけれども、やっぱりこういうコンクールの面白さはいろんな意見を聞くと変わっていきます。これがすごく面白くて、できるだけ素直に受け取った方が良いなと思っています。審査やっている方が勉強になるっていうコンクールですよね。それがとても良かったなと思います。どれが最優秀になっても上の三つはおかしくなかったので、ほんの誰かの一言とか、ちょっとした軽いプッシュで決まったように思います。でもそれも運命ですし、今回はこの結果で良かったと思います。おめでとうございます。









実行委員長　浅井さん

コードな建築っていうタイトル作った時に、みんなで作るっていうのがずっと頭にありました。北支部のメンバーは集まってギターをやっていたりすると突然音楽ができるそのテクニックというか、キーワードがすごくいいなと思ったのでこのタイトルにしました。地包みの平屋建ては、まさに僕が思っていた作品が最優秀になったなと感じます。設計の手法を逆回しにしても、なんか成立するのだというのがまた新しい建築作るだろうなと思ったので、そっちの方向性でどんどん建築を作ってくれると、僕らが求めていた建築の定義がまた広がっていく。優秀賞の二作品は建築って言っていいのかどうかですが、このコンクールはまさに建築で、建築の定義を広げてくれているということで、そういう意味では、今回も大満足な作品が集まり、それに賞が決まったなと思っています。皆さま、お付き合いいただきましてどうもありがとうございました。

協賛企業挨拶



本日は、第16回建築コンクールが開催されましたことを改めまして喜び申し上げます。『コードな建築』と言うテーマを初めてお伺いした際、抽象度が高く、出展に関して予想がつきませんでした。本日は実際にそれらに触れさせていただき、刺激的で楽しい時間を過ごさせていただきました。
最優秀賞及び、各種受賞された皆様、本当におめでとうございます。また来年以降も、こうしたコンクールが継続されることをお祈りして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

協賛／

AsahiKASEI 旭化成建材
kitchenhouse
株式会社ユニソン
葉っぱの世紀のはじまり。ユタカ工株式会社
雨のみちをデザインする Tanita Housing Ware
株式会社確認サービス
KY TILE
あなたの「夢」応援します。日建学院
株式会社加藤設計
阿部建設株式会社
誠和建設株式会社 SEIWA
HC.Home's
めざせ！土木の達人 新都工業株式会社
ARAI GUM
KANÔ Komuten Inc. 加納工務店
aq. luxury experience & high quality for new bath room

後援／
愛知県、名古屋市、
(株)中日新聞社、
(公社)日本建築士会連合会、
(公社)愛知建築士会、
(公社)愛知県建築士事務所協会、
(公社)日本建築家協会東海支部
愛知地域会、(株)中部経済新聞社

会場協力／
株式会社イトーキ
ITOKI NAGOYA DELA

公益社団法人
愛知建築士会 名古屋北支部

製作・発行
公益社団法人　愛知建築士会名古屋北支部
第16回建築コンクール「コードな建築」2025年　■月発行
https://www.asa758kita.jp/
https://kenchiku-concours-758n.org/

【しぶチャン】　【コンクールHP】

第16回建築コンクール「コードな建築」冊子編集委員／支部会員：長尾正誠・松浦和正
学生会員：天野楓斗・猪飼実紗・大片晃生・坪内陽菜・寺田響・溝口詩音・吉田理人
撮影協力／ToLoLo studio　　デザイン・編集／souvenir